

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190700031		
法人名	有限会社 さわやか 門前		
事業所名	グループホーム 門前		
所在地	佐賀県鹿島市甲1650番地		
自己評価作成日	平成24年4月4日	評価結果市町村受理日	平成24年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成24年4月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○一人ひとりがゆっくり、楽しく、穏やかに生活されるように、相手の気持ちを良く聴いて支援している。○月に一度のピクニック。(鹿島伝承芸能隊、のみの里、東と賀町のシチメンソウ、割烹花佳、武雄ゆめタウン、旭ヶ丘公園、大村のシュシュ、武雄温泉ハイツ、祐徳神社の日本庭園、嬉野あつたか祭り等)○地域の方との「認知症を知る会」を開催。○書作、ビデオ、カラオケ、計算ドリル、音読などの日中活動。○一月ごとの写真入りおたより。○年に一回落語会で地域の皆さんと共に楽しむ。○近くの保育園へお遊戯会への参加や保育園生が入居者に会いに来て肩たたきや歌をうたったりと皆で楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

祐徳稲荷神社の門前町にあるグループホーム「門前」は、地域の住民に対する社会貢献を行うことを目的として、創設されたホームであるため、地域の住民の方や商店の皆さんとの関係を常に意識した連携、協力に取り組まれている。この地域で開業医をされていたホーム長の父は、地域の方からも信頼されていた医師であり、この地域医療を見て育ったホーム長は、地域の住民の方からもたいへん親しまれている。ホーム内に設置されたAEDは、地域の方、参拝者にも活用できるように考えておられる。また、市の福祉担当者との連携をとり、キャラバンメイト「認知症を知る会」を自治会と共に年2回開催している。民家改修型の温かみのある環境で入居者中心のケアを提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月一回のミーティングで話し、その都度必要な時に話し合っている。	「ゆっくり楽しく地域の方と一緒に過ごすこと」を目指し、朝の申しつぎ、カンファレンス、ミーティングで話し合いが行われ理念の実践に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣保班の回覧板を回したり、順番で班長をしたり、川掃除や、ふれあい祭りに班として参加している。	地域の行事等には、入居者と職員と一緒に参加し、地区の役割(班長等)も行い、地域住民の方との交流や社会貢献活動が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年古枝地区と浜地区の公民館を借り「認知症を知る会」を開いている。(3月17日上古枝公民館、3月20日北舟津公民館)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、避難訓練の話をしたところ、地域の方から早く知らせる為に、サイレンを付けた方がいいのではないかと意見を出していただき、サイレンを設置し訓練を行っている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、家族・地域住民(自治会)・行政等も参加され、行事報告や情報交換、研修等が行われている。また、翌月には家族会を開き、話し合いがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の包括支援センターの方と協力していただき、「認知症知る会」を開催している。	地域包括支援センターや介護保険事務所、市の福祉担当者と連携をとり、キャラバンメイト「認知症を知る会」を自治会と共に年2回開催している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が理解しており拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修に参加し、月1回のミーティングで全職員が理解できるよう努めている。ホームの環境として、「玄関の施錠はしない」「チャイムやモニターの設置」「離床センサーの設置」等もおこない、身体拘束とならないケアに努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会に参加する機会を持ち、虐待が見過ごされることがないように、ヒヤリハットを多く書くようにしている。そして日中は職員3人で相談して業務にあたり虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しておられることもあり、家族会や、運営推進会議で学ぶ機会を持ち、活用しておられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っているつもりではあるが、不十分な点、疑問点はその都度尋ねてもらえるように、話しやすい関係を保っているように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会時、家族が受診に付き添ってもらう時、利用料を持って来られた時、家族会に参加された時などに意見を聞いたりし、それを運営に反映している。	2ヶ月に1回の家族会・運営推進会議・面会等で家族の意見を聞かれている。この意見は、職員ミーティング等で検討され、家族等に回答されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と個人面談をしたり、毎日の申し送りの時間などに意見や提案を聞いている。	朝礼や申し送りノート、個人面談等で職員の考えや意見を聞き、サービス向上や職場の環境改善等に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりがいろんな研修に出来るだけ参加できるように計画し、それぞれの希望に出来るだけ合わせた勤務調整をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いろんな種類の研修に参加されるように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会の勉強会に参加し、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事があった場合、どうしたら安心して生活してもらえるかを皆で話し合い、出来るだけ早く実現して安心した生活を送られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望などを良く聴きながら、ホームとしての説明もし、信頼していただけるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	言動や行動に見極めが難しいと思われる事に対しては、家族へ確認したり、ミーティングなどを利用して、協議支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	高齢だったり、体が思うように動けなかったりと、ついお客様にしてしまっている。出かけることを少しづつしてもらい、職員は、黒子になり共に生活する場を作るにはどうしたらいいか思案中である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時などに意見や悩みを聴き、その家族の立場を考えながら、共に本人を支援していけるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来てもらいやすいように配慮したり、本人が電話をかけたい時にかけられるようにしたり、家の近くまでドライブに出かけたりしている。	地域の行事等に参加したり、ドライブ(個人の希望場所等)に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格などを考えながら、食堂のテーブルの位置を変更したり、気分を変え食堂と居間で分かれ食事をしてもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人のところへ面会に行くとともに喜ばれる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を出来るだけ聴くように、そして生活しやすいように努めている。	普段の生活の中から入居者とコミュニケーションを行い、言葉や表情を感じながら、本人の意向を把握することに努め支援が行われている。また、家族から、生活歴等の情報を集め、個別ケアに取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生き立ちを家族に記録してもらい、今までの生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりそれぞれ違うのでその人の状態を考え対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話し合い、家族の意見を聴きながら計画を作成している。	職員や入居者、家族、主治医等との話し合い、情報収集、意向を確認し、介護計画が作成されている。モニタリングも毎月1回行われ、評価記録が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫などの記録は検討中である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	もっと柔軟に多機能化に取り組んでいければ、一人ひとりが充実し楽しく生活できると思うが、日中3人の職員では難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の保育園よりホームへ時々来られ、楽しく交流している。避難訓練を年に一回は、隣保班の方や、消防団の方に参加していただき協力してもらっている。入居者の希望で近所の店へおやつを買いに共に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その方の今までのかかりつけの病院へ受診されるように進めている。定期受診は、出来るだけ家族にお願いし、無理な時はホームから付き添い協力しあっている。	入居者や家族の希望する医療機関で受診できるように支援されている。ホームの看護師が情報提供を行うことにより、連携のとれた健康管理ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護師に相談し、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合面会に行き、先生の回診時に病状を尋ねたり、家族が出来ないときは必要な物をそろえたり、洗濯物を交換したりと、本人や家族と相談しながらしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会や面会時に看取りのありかたについて今後も十分話し合っていきたいと考えている。	入居する契約時に看取りについての説明を行い、意向を聞き、終末期におけるケアや医療に関する内容を文書にして同意をとられている。重度化した場合は、家族や主治医と十分話し合い、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、AEDを使用した訓練を年に一回消防署に指導をお願いし実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災、水害等を想定した訓練を隣保班の方や消防団の協力を得、実施している。	年2回の夜間想定避難誘導訓練を地域住民や消防署、地元消防団等と一緒にを行い、火災を含め水害等も想定した訓練が行われている。また、災害に対しての設備として、サイレン2台を外壁に取り付けて安全確保に努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人ひとりの性格を把握し、その人のその時々のお気持ちに寄り添った対応を心がけている。	入居者の生活歴や日常生活から、心身の状態を理解することに努め、人格を尊重した言葉かけにより、さりげなく支援することに取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけを大切に、信頼関係をつくり、希望を表したり、自己決定しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調の変化をみながら、本人の意思を尊重した支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	枕元に鏡とくしを持っておられ、身支度をされ食堂へ来られる方もおられる。お出かけやピクニックの時は、スカーフなどおしゃれをして出かけられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きはできる方でされ、食器の後片付けを毎回され食器棚になおされる。	職員も入居者と一緒に同じ食事を食べることにより、家庭的な雰囲気づくりにつながっている。配膳や片づけ等入居者も一緒に行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ残しがないように食べやすく工夫をしたり、ミキサー食、おかゆとその方にあった食事形態で提供している。夜間も居室にペットボトルを準備しのみたい時に飲めるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は自力で口腔ケアされる方や介助が必要な方、それぞれに言葉かけをし清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄にあわせ、見守りやパット交換、定期的におむツ交換をしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへの誘導を基本としたケアが行われている。入居者に合った個別ケアにより、排泄の自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理には、野菜を多く使い、毎日のリハビリ体操を楽しんでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて入浴の支援をしている。	いつでも入浴できるように毎日準備されており、入居者の心身の状況に合わせて入浴の支援が行われている。重度の方には、座位式のリフトが設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時に休まれ、夜は気持ちよく休まれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になっても分かるように、個人ファイルに薬内容をつけ、いつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる方にはモップ掃除や食器拭きなど役割をもってしていただいたり、カラオケやドライブ、散歩など支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって、おやつを買いに散歩に行ったり、家までドライブしたりしている。	外出の機会を多く作り、散歩や買物、ドライブ、ピクニックの外出(毎月1回)を積極的に取り組まれている。この他、家族や地域の方、有償ボランティアの協力もあり、個別に外出支援も行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていたい方は、持っておられ、居室のあちこちに直し、なくなったといわれる方はホームで預かり時々見てもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望される時自由にされるように支援している。携帯を持って来られ自由にかける方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活観や季節感を取り入れた飾りなどをしたり、保育園からの写真を飾ったりしている。	民家改修型の家庭的な雰囲気を活かして、落ち着いた、くつろげる空間が作られている。室内には、絵画や入居者の作品、行事や催物の写真、生花、お便り等が飾られ、温かい心配りを感じる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で思い思いに過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ってきていただいたり、本人が居心地よく過ごせるように工夫し支援している。	居室は、入居者のこれまでのライフスタイルに応じた環境整備に努められている。自宅で使用していた家具や飾り物、写真等が持ち込まれており、居心地が良い居室の環境づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所にはテスリをつけ、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		